宝島社
『田舎暮らしの本』
2018年2月号

2018年版
第6回

日本「住みたい田舎」ベストランキング！

2年連続

若者世代が住みたい田舎 第1位

栃木県 栃木市

とちぎし

大きなまち		
	若者世代が住みたい田舎	第1位
	子育て世代が住みたい田舎	第2位
	シニア世代が住みたい田舎	第2位
	総合部門	第3位

最も旬な移住地をランキング形式でご紹介する「住みたい田舎」ベストランキング。
第6回は全194項目のアンケートに671の自治体が回答。
人口10万人未満の「小さなまち」と10万人以上の「大きなまち」に分けてランキングしました。
栃木市は「大きなまち」の全4部門でベスト3にランクインしました。

『田舎暮らしの本』特別編集©宝島社　イラスト／ヤマグチカヨ

第6回「住みたい田舎」ベストランキング！

若者世代が住みたい田舎 第1位

総合部門 第3位

子育て世代が住みたい田舎 第2位

シニア世代が住みたい田舎 第2位

栃木県 栃木市（とちぎし）

アンケート結果

総合部門	73点／83項目
若者部門	25点／27項目
25点＋（移住者数2人×0.04）＋（総合73点×0.1）＝32.38点	
子育て部門	43点／52項目
シニア部門	26点／28項目

『田舎暮らしの本』編集長・柳の総評

本ランキングでは北関東から突如として1位に躍り出た感がありますが、子育て支援の手厚さでは知られた市です。多くの企業が人材確保に苦しむなかで、地元発祥の新進企業に全国から若者が集まっています。市の取り組みも一役買っているに違いありません。

若者、子育て世代への手厚い支援制度が自慢。地域おこし協力隊も活躍中！

かつての日光例幣使（れいへいし）街道の宿場町で、情緒ある街並みが残る栃木市では、Uターンの若者や地域おこし協力隊が、さまざまなプロジェクトを進行中。幼稚園・保育園から高校までの学校も多く、地域に根差した教育が行われている。若者が集まり、活気ある栃木市の魅力を探った。

文／中山茂大　写真／冨田寿一郎　写真提供／栃木県栃木市

若者の就業や創業を手厚く支援

北関東随一の商都として発展してきた栃木市。中心市街地では「見世蔵（みせぐら）」など数多くの歴史的建造物や、水運の要であった巴波川（うずま）など、古都の雰囲気が香り、郊外では、広大な渡良瀬遊水地や田園風景が広がる里山など、多彩な風景が楽しめる。

同時に田舎暮らしを志向する人にとっては注目の自治体でもある。前回の本誌ベストランキングでも、若者世代が住みたい田舎部門1位、子育て世代が住みたい田舎部門1位と、高い評価を得た。

その背景には、手厚い定住者支援制度がある。住宅補助制度や育児支援はもちろん、就業・起業サポートも充実していて、例えば「とちぎジョブモール」では、就職支援サイト「WORK（わく）とちぎ」を開設、就業までを一貫してサポートする。起業を目指す人には、市と商工

⬆藤岡地域の渡良瀬運動公園では一年を通して熱気球が体験できる。

⬆西方地域の「ど田舎にしかた祭り」。会場ではお笑いライブやパフォーマンス、田んぼでは「田んぼ相撲」などが行われる。

⬆嘉右衛門町で行われる「クラモノ。」では、貴重な建造物を舞台に個性豊かな店やイベントが開催され、多くの若者が集まる。

⬆鈴木市長と都市整備部住宅課の皆さん。「2年連続」ということでピースサイン。

会議所などが連携して対応する「栃木市創業トータルサポート窓口」や「創業塾」があり、塾の修了者には「チャレンジショップ開設事業」に優先的に出店が認められるなどの特典も頼もしい。また地域おこし協力隊を積極的に迎え入れ、若者が集まる場づくりなどにつなげている。

四季折々の食を通し栃木市を好きになってもらう

市内中心部を縦貫する「日光例幣使街道」に面した「関根邸」。ここを改修した「パーラートチギ」を拠点に、栃木市の魅力を発信しているのが、2017年6月から地域おこし協力隊として赴任した島田千晶さんだ。東京の大学に進学し就職したものの、パーラートチギの改修作業の手伝いをしたことがきっかけで、地元の職人や農家、市を盛り上げようと活動している人たちと出会い、地元のためにできることをしたいと栃木市にUターンした。

「以前は、なにもない田舎町だと思っていましたが、東京から見てみると改めて『知れば知るほど味が出る、スルメのようなまちだ』と気づいたんです」

「パーラートチギ」では、市内の野菜はもちろん、規格外で出荷できずにロスになってしまう野菜をムダなく使った料理を提供。生産者と直接つながることで、「ものを大切に使う」気持ちが強くなったと話す島田さん。市内の四季折々の特産物を楽しみ、栃木市に興味を持って、好きになってもらえるような活動をしていきたいと語ってくれた。

島田千晶さん●25歳

栃木県栃木市出身。東京で就職した後、地域おこし協力隊としてUターン。「パーラートチギ」を拠点に、SNSなどを通して栃木市の魅力を発信する。地域おこし協力隊の契約は3年。その間に「自分の目標を軌道に乗せたい」と話す島田さん。

栃木市の満足度 90点

「よい意味でほっといてくれない方が多く、時間の流れがゆっくりしている点がおすすめ」

↑「パーラートチギ」では旬の特産品を使用した料理が楽しめる。

移住者リポート

鶴田菜々子さん●29歳

兵庫県西宮市出身。県内唯一の「重伝建地区」内に居住しつつ、同地区の街並みや伝統文化を生かしたイベントなどを企画。栃木市で初採用の地域おこし協力隊員。伝統建築へのリスペクトがヒシヒシと感じられた「古民家女子」の鶴田さん。

栃木市の満足度 85点

「ご近所の方に、留守番などあれこれ気軽に頼めるところ。坂がないのもうれしいです。市内に4年制大学があれば、若者が増え、まちが華やかになると思うので期待を込めてこの点数です」

↑「見世蔵」がズラリと並ぶ嘉右衛門町の保存地区を散策する鶴田さんと島田さん。冬晴れの好日。

「古民家女子」が保存地区を救う！

旧市街地に位置する嘉右衛門町は、江戸末期以降の伝統的な建造物が多く、平成24年に国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定された。「これを噛まずに言えるようになって一人前」と笑うのは、昨年4月から地域おこし協力隊として同地区で活動する鶴田菜々子さんだ。

兵庫県西宮市出身で6歳のときに阪神・淡路大震災を経験。大学では建築学を専攻し、住宅メーカー勤務ののち、古民家に携わる仕事がしたいと栃木市の地域おこし協力隊に応募した。

伝統文化を生かしたイベントなどを通して、地域の活性化、移住・定住の促進につなげるのがミッションだ。現在、鶴田さんが住んでいる古民家は、天保5年建築（築180年以上）の麻苧（あさお）問屋で、栃木市で最も古い見世蔵だという。

「すき間風がすごいですが、憧れの古民家に住めて幸せです。ご近所の方にも、とても親切にしていただいています」

フォトグラファーがひかれた歴史と暮らしが融合したまち

栃木市の「空き家バンク」は登録件数210件、成約率58・6パーセントと、全国屈指の充実度を誇る。この物件情報を参考にマイホームを購入したのが、フォトグラファーの佐久間はるかさんだ。

「歴史と暮らしが見事に融合」した栃木市が気に入って、市内の賃貸住宅に暮らしつつ物件を探し、現在の住まいを手に入れた。じつはこの住宅は以前、空

お試し住宅「蔵の街やどかりの家」体験中！

最大1カ月の「お試し移住」が体験できる「やどかりの家」は、1泊2000円。取材時に利用していたのは、東京都出身の石川亮さん（27歳）だ。「栃木市は東京にも近く、通勤も可能なことや、若者世代に人気の街だということもいいです」。和太鼓の講師という仕事柄、お祭りや伝統文化を盛り上げる取り組みに、積極的に携わりたいという。

←「栃木市を訪ねたのは、まだ3、4回目」という石川さん。歴史のある雰囲気が特に気に入っているという。

↑「やどかりの家」は昭和25年建築の趣のある建物。日常生活に必要なものがほぼ揃っており、長期滞在も可能だ。

き家バンクに登録されていた物件で、見学して「一目惚れ」したとのことだ。

新生活を始めて2カ月。人生初の田舎暮らしだが、都会とは違うスローライフのなかで自分と向き合う時間ができた。

「都会にいたころは人も街も忙しく、日々の暮らしを楽しむ余裕はありませんでした。でも栃木に来て初めて生活を楽しむことの豊かさを知り、そんな暮らしのなかで自分のやりたいことがどんどん明確になり、仕事も楽しくなりました」

取材を終えて感じたことは「若者が元気な地域には、さらに若者が集まってくる」ということ。栃木市では「パーラートチギ」をはじめ、若者のコミュニティが積極的に活動し、情報を発信している。それが若者をひきつける原動力になっているのだ。

↑「とちぎ西部生きがいセンター」はコミュニティセンターや高齢者福祉施設、児童館が入った複合施設だ。

↑「赤ちゃんの駅」は、誰でも自由におむつ替えや授乳ができるスペース。子育て世代にもやさしいまちになっている。

↑本の代わりにおもちゃがある「おもちゃ図書館」。節分やひな祭り、七夕などさまざまなイベントが行われ、シニア世代とのふれ合いも。

高校生の活動も活発！

栃木市では、若者はもちろん、高校生による活動も盛んだ。市内の高等学校の生徒を中心に、学校の枠組みを超えて、まちづくりに取り組むサークル「とちぎ高校生蔵部」などがある。地域を知り愛着を持ってもらえることで将来のUターンにつながる。

↑蔵の街大通りの空き店舗や見世蔵を活用し、「高校生合同文化祭」を開催。

↑コミュニティFM「FMくらら857」では、市内の高校生がパーソナリティーを務める番組も放送されている。

鈴木俊美 栃木市長より受賞メッセージ

すべての世代に住みやすいまちづくりをさらに目指します

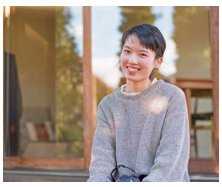
昨年に続きよい結果が出たことを大変うれしく思います。栃木市は1市5町で合併してわずか8年ですが、ポテンシャルの高さを改めて知らせてくれました。2年連続で高順位をいただいたことは、まさに本物だと思います。特に今回は、総合、若者、子育て、シニアと、それぞれの部門で上位となり、すべての世代にとって住みやすいまちだということだと思います。私たちのまちづくりが間違っていないという自信につながりました。

移住者リポート

佐久間はるかさん●29歳

東京都出身のフォトグラファー。埼玉県久喜市から移住。仕事の関係で週に一度は上京するが、栃木市に戻るとホッとするという。ニューボーン、ファミリーフォトなどの出張撮影を行う。
出張フォトhachigraph(ハチグラフ)
http://www.hachigraph.com

栃木市の満足度 **90**点



「家もまちのたたずまいも素敵で満足しています。唯一のマイナス点は車がないと不便なことですね（ただし自転車でも充分移動できますが）」

↑11月に入居したばかりのお宅は築34年。まるで料亭のような造りで状態もかなりいい。「家主さんが大切に暮らしていた思いを感じますね」。

利用した支援制度

- □市内住み替え制度…7万5000円
- □若年加算…5万円

栃木市の3つの魅力！

- □移住者支援の手厚さには自信あり
- □東武鉄道、東北自動車道、北関東自動車道と東西南北に交通網が充実
- □情緒ある街並みと郊外の自然との調和

栃木市の支援制度

栃木市では若年層をはじめとした移住・定住者への補助金制度が充実している。組み合わせによっては最大で、なんと250万円相当になることも！ 以下、その一部を紹介しよう。

- □ **IJU(移住)補助金** 市街地に住宅を新築・購入した移住者に上限100万円
- □ **フラット35** 家の購入にかかわる借入金利が最大で0.5%引き下げ(100万円相当)
- □ **結婚新生活支援** 最大で30万円
- □ **空き家バンクリフォーム補助金** 最大で50万円
- □ **通勤者特急券購入費補助「楽賃」** 月額最大1万円

栃木市
マスコットキャラクター
とち介

お問い合わせ
栃木市 都市整備部住宅課定住促進係
☎0282-21-2452・2453
http://www.tochigi-akiya.jp/